

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和8年度～令和12年度（5年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	（ちゅうぶさんがく） 中部山岳森林計画区 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 ちゅうしん 中信森林管理署												
事業の概要・目的	<p>本事業は、長野県北西部に位置する松本市を含む4市5村に所在する約99千haの国有林野を対象としており、本計画区の国有林の94%が保安林（水源涵養保安林51千ha（52%）、土砂流出防備保安林43千ha（42%）に指定されている。</p> <p>本計画区は、日本列島を東西に分ける「糸魚川－静岡構造線」が南北に走り、地質的に脆弱な上、急傾斜地が多い地域である一方で、山岳地帯は特に優れた自然景観を有していることから、西側は中部山岳国立公園、北東側は妙高戸隠連山国立公園、東側は八ヶ岳中信高原国定公園にそれぞれ指定されており、自然環境の保全と森林のふれあいの場となっている。</p> <p>本計画区の森林現況は、人工林11%、天然林70%、その他19%となっており、人工林における樹種別割合は、カラマツ66%、ヒノキ22%、スギ6%とカラマツが占める割合が高い地域であり、本計画区内の森林面積は、県内森林面積の22%を占めている。</p> <p>国有林においても木材の安定供給を通じ、地域産業に寄与されることが期待されることから、主伐、間伐を見据えた路網整備や主伐後の更新とその後の保育が必要となっている。</p> <p>本計画区では、伐採と造林の一貫システムを推進するとともに、コンテナ苗には緩効性肥料を施肥するなどを行い苗の成長の検証を行うとともに、現地の実態に即して下刈回数を縮減するなどの取組を進めることとしている。</p> <p>また、路網の整備と合わせて列状間伐を推進することとしている。</p> <p>このため、本事業は、機能類型に応じた管理経営として、水源涵養機能タイプ等の公益的機能に配慮しつつ併せて、木材の安定供給等による地域の活性化にも貢献するため、地域特性や現地の状況、社会的情勢を踏まえ、植栽や間伐等の森林整備を積極的に実施するとともに、森林整備の効率的な実施に必要な路網を整備する。</p> <p>・主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>152 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>2,476 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>3.0 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.7 km</td> </tr> </table>			森林整備	更新面積	152 ha		保育面積	2,476 ha	路網整備	開設延長	3.0 km		改良延長	0.7 km
森林整備	更新面積	152 ha													
	保育面積	2,476 ha													
路網整備	開設延長	3.0 km													
	改良延長	0.7 km													

	<ul style="list-style-type: none"> ・総事業費 2,716,745 千円（税抜き 2,469,768 千円） （2026 年度～2030 年度の 5 カ年の事業費）
費用便益分析	<p>総便益（B） 11,898,699 千円</p> <p>総費用（C） 3,036,117 千円</p> <p>分析結果（B／C） 3.92</p>
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	<p>本事業については、機能類型に応じた管理経営として、木材の安定供給とともに、水源涵養機能タイプ等の公益的機能の配慮が図られている計画であり、事業の必要性、効率性及び有効性が認められる。</p> <p>本事業では、森林整備や路網整備を適切に実施しながら、事業を通じて地域の振興に貢献していくことが望まれる。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： カラマツ等を主とする人工林の現況などから見て、木材の供給とともに森林の公益的機能を発揮させるため、間伐等の森林整備を実施することとし、それらに必要な路網整備を併せて実施する必要性が認められる。 ・効率性： 間伐等を主とする本事業による木材生産ほか公益的機能に係る総便益は、総費用を上回っており事業の効率性が認められる。 <p>なお、総費用の抑制に資するよう、森林整備については、下刈回数削減を図るなどのコストの低減が図られている。</p> <p>路網整備においては、現地の地形に即しながら、極力、切土や盛土を少なくするなど工事費用の削減が図られている。</p> ・有効性： 森林整備や路網整備により、森林の有する多面的機能の確保を図るとともに、山村の活性化に寄与することが見込まれることから、事業の有効性が認められる。

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：長野県

施行箇所：中部山岳森林計画区(中信森林管理署)

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	2,463,808	
	流域貯水便益	840,053	
	水質浄化便益	3,567,596	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,204,625	
環境保全便益	炭素固定便益	580,839	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	6,950	
	木材利用増進便益	3,248	
	木材生産確保・増進便益	453,365	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	778,215	
総 便 益 (B)		11,898,699	
総 費 用 (C)		3,036,117	
費用便益比	$B \div C = \frac{11,898,699}{3,036,117} = 3.92$		

参考

費用便益比 (i=0.02)	$B \div C = \frac{19,580,558}{3,789,165} = 5.17$		
費用便益比 (i=0.01)	$B \div C = \frac{26,349,987}{4,394,415} = 6.00$		

